



皆さんのお家のお雑煮は、白みそですか？それともお味噌ですか？
我が家は、甘めのお味噌ベースに岩のりと切りイカ、とうふ、お餅を入れます。
さてどこの県のお雑煮でしょう？

ひかりのこつうしん

「WWJD」

2026年1月



ひかりの子幼稚園
園長 若槻 三記子

新しい年を迎え、子どもたちの元気な声が園に戻ってまいりました。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

先日、倉治小学校教頭で、クリスチャン、卒園児の保護者でもある野地岡先生をお招きして「人権研修」をしていただきました。これまで私は、人権教育というと「この言葉は使ってはいけない」というマニュアルのような、どこか難しく堅苦しいものとして捉えていました。しかし、今回のお話は、私達の保育者の悩みに優しく寄り添い、保育の指針になるものでした。

保育の現場は、判断に迷うことがあります。例えば排泄の場合、トイレに行きたくないと言う子に「途中で行きたくなったら困るから、今行っておいで」と促したり、給食の時間に何でも食べられる子になって欲しいと願うあまり、「もうちょっと食べられる？」と言ったり…。これらも実は、子どもの気持ちを置き去りにした、人権に反した関わりになり得ます。私達は日々、その子にとって何が正解なのかと悩み、迷い、葛藤の中で判断を下しています。

今回のお話の中で私の心にストンと落ちたのが『WWJD』 What Would Jesus Do? (イエスさまならどうされるだろう)という視点でした。イエス様なら、今日の前で困っている子、嫌がっている子を、大人の都合で動かそうとはなさらないでしょう。イエス様の周りに子どもが集まった時、弟子たちが追い払おうとするのを「子どもたちを私の所に来させなさい。」とたしなめ、一人ひとりを抱き上げ、祝福されたように、イエス様なら、まずはその子の「嫌だ」と言う気持ちを丸ごと受け入れ、隣に座ってくださるのではないでしょうか。それが正解かどうかではなく、神様ならこんな時どうされるかと思うことが大切だと思います。

また「保育者が自己開示をしていくことで、子どもは安心して自分を表現できるようになる。」ともおっしゃいました。子どもは大人の心を映す鏡です。大人が不安であれば子どもも不安になります。大人が「私も失敗するんだよ。」とありのままをさらけだすことで、子どもも自分を出すことができます。私たち保育者は、そのような安心できる場所、存在となりたいです。そのためには、まず私たち保育者自身が愛で満たされていなければなりません。

「自分が好きかどうかを 10 点満点で表して下さい。」と野地岡先生に言われました。「自分を好きになれない人」も、「自分を大好きだと思う人」も、神様は等しく愛を注いでくださいます。

私を創造し、ありのままの存在を愛して下さる神様の愛に触れ、自我と言う仮面をかぶっていたかたくなな心が碎かれ、心が癒されるような温かな時間を持つことができました。

愛を受け取り、愛を与えるという循環が、豊かに巡っていくことを願っています。新しい一年、私たち職員も神様の愛に満たされ、その温かな眼差しで、子どもたち一人ひとりの歩みに寄り添ってまいります。



【子どもの発言集】

★入園したての A ちゃんは、ママに会いたくなつてお帰り支度を始めました。

「お邪魔しました～！」とリュックを背負いドアを閉めて帰ろうとする姿に
みんなびっくり!! ちゃんと挨拶するところが微笑ましいですね。

★「あんな～パパ、へそくり持ってるねんで！」と B ちゃんが先生に暴露。

「でも(私に)これへそくりやでってばらしてんねん。

そんなんへそくりちゃうやんなー！」 その通り、よくわかっている

